



砺波平野をはぐくむ  
水と緑の田園空間

豊かな水と緑に恵まれ、  
“日本の農村の原風景”の  
一つである砺波平野では、  
さまざまな先人の知恵と  
営みの中で、独特な生活  
文化が育まれてきました。



あずまだち高瀬  
高瀬コミュニティ施設  
富山県南砺市北市 128 番地 4  
開館時間／午前 9 時～午後 5 時  
休館日／毎週火曜日、12 月 29 日～1 月 3 日  
入場料／無料 TEL. 0763-82-5828



高瀬コミュニティ施設  
あずまだち高瀬



A Z U M A D A C H I - T A K A S E



今も残る  
“人と自然の共生の空間”  
豊かな感性を育む空間”は  
美しい散居景観として、  
次代の子供たちへ引継いで  
いくべき重要な財産です。







—受け継がれる文化 井波の新しい風—

### 高瀬コミュニティ施設

## 「愛称:あずまだち高瀬」

高瀬コミュニティ施設【愛称:あずまだち高瀬】は、農村が持つ豊かな自然・伝統・文化などの再発見と、砺波平野の失われつつある伝統的家屋を後世に残し伝えるために、その象徴である「ワクノウチ」を移築復元したものです。

建物全体を見るだけでなく、この地方に伝わる昔ながらの居住空間を体感でき、伝統建築の魅力にふれることができます。

## 伝統的家屋 アズマダチ

日本の一般家屋に見られる屋根の形式には、寄棟(よせむね)・入母屋(いりもや)・切妻(きりづま)の3種類があり、切妻屋根は砺波平野にも多く見られる形式です。特長としては、切妻の妻面(両端の山形の壁の部分)を前に向けた瓦葺きの大屋根の家で、妻面には太い梁と束が格子に組み、間に大横(ぬき)を入れ、木部は漆を塗り、間を白壁で仕上げ、幅の広い破風板(はふいた)が斜めに大きく取り付けられています。砺波平野の一般家屋は全体的に東向きが多くあり、中でもこの屋根型式は、いかにも東を向いている事が強調されるため、アズマダチ(東建ち)と呼ばれたものと思われる。この屋根型式の出現は幕末からと聞き及び、最初は十村(とむら)の役宅や寺の庫裏などで何れも板葺きだったらしいが、明治期に入り身分制が緩んでくると大地主の家に取り入れられ、明治末期には瓦の普及とともに一般化するようになり、妻面の美しい瓦葺きの大屋根は、昭和30年代まで一種のステータスとして栄えたようです。



広間 様々なイベントや、展示会などを予定しております。ギャラリーとしてもお使いいただけます。



研修室1・2

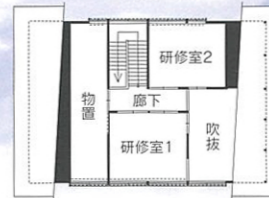


カウンター・ラウンジ

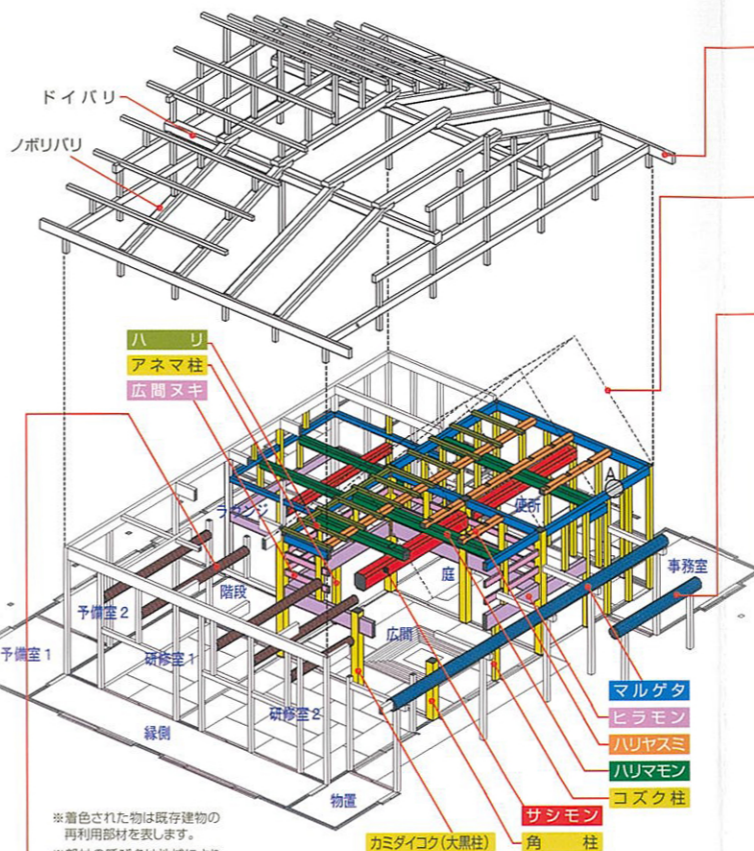
1階平面図



2階平面図



(納屋)



※着色された物は既存建物の再利用材を表します。  
※部材の呼び名は地域により異なる場合があります。

本来の農家住宅アズマダチでは、広間に続く2間続きの座敷でこのような梁を見せることは無いが、旧家屋の屋根裏(アマ)で使用されていた材料を生活の記憶として再利用を図りたかった事と、研修施設として天井を高く設定する必要があったため、単調な空間とならないように配慮した事による。



## 移築の流れ

茅葺屋根を撤去し「アズマ」屋根に変更する。本施設の場合は広間の「ハリヤスミ」上端面から約3尺程度立ち上がる。

当初はこのような茅葺の屋根だったと思われる。

正面のマルゲタは既存の建物の縁側にあった物を移設した。

砺波平野に多くみられる農家住宅の代表的な建物様式である「アズマダチ」や「ワクノウチ」が近年失われつつあり、これら貴重な伝統的家屋を後世に残し伝える必要がありました。

また、地域の歴史や風土など地域文化を再発見し、交流や体験を通して次世代へ守り伝える地域活動の拠点施設の整備も必要でした。

この事から、既に空き家となっている家屋や取壊し予定の家屋を見て歩き、所有者の承諾を得られたのがこのアズマダチ家屋です。



旧家屋/砺波市野村島地内 居宅/木造瓦葺平屋建

## ワクノウチ (桼の内造り)

日本の農家住宅を間取りで区分すると、広間型と田の字型に区分されており、富山県の場合は全般に広間型が多いようですが、地域や規模により若干異なっています。また、広間型でも呉西と呉東で少し違いがあり、呉西にみられる広間型では広間の上大黒柱(かみだいこくばしら)と下大黒柱(しもだいこくばしら)の上にサシモンと呼ばれる太い横梁が架けられ、この上にハリマモン(梁間物)と呼ばれる縦梁を直交させて架け、柱と柱の間をヒラモンと呼ばれる差鴨居(さしかもい)で連結させ、桼を組んだようになっています。このような構造が「ワクノウチ」と呼ばれ、この「ワクノウチ」を家屋の核として他の部分の構造を造り上げたものを「ワクノウチ」造りといえます。

材料は、総ケヤキを最高とし、スギ・アテ・マツなどが使われ、見えるところは全て漆塗りで仕上げられています。

